

1996/6

Vol. 3

石川県リハビリテーションセンターニュース

平成8年度研修事業実施計画

- ◇本年度の研修予定はつぎのとおりですので、年間計画を立てる際の参考にしてください。
- ◇実施要領は、研修日のおよそ1カ月前までに対象者の所属機関・施設へご案内します。
- ◇研修内容・その他詳しくは当センターへお問い合わせください。

月 日 (曜日)	研 修 名 (テーマ) 内 容	講 師 (予 定)	対 象 者 予 定 人 数
6月15日 (土)	第8回リハビリテーション研修 P・T・O・T新卒者研修	石川県理学療法士会会長 石川県作業療法士会会長 接遇講師	P・T・O・T、新卒者 30名
6月29日 (土)	第5回障害者日常生活補助具製作研修 補助具の簡単な製作方法や市販品の改良方法について	リハビリセンター職員	主に福祉施設職員
7月13日 (土)	第9回リハビリテーション研修 理学療法士技術研修 整形徒手療法の理論的背景 作業療法士技術研修 補助具研修(ホイストと吊り具について)	有川整形外科医院院長 有川 功氏 大阪府立看護大学医療技術短期大学部 吉田 恒輔氏	P・T 40名 O・T 25名
8月10日 (土)	第6回障害者日常生活補助具製作研修 補助具の簡単な製作方法や市販品の改良方法について	リハビリセンター職員他	県市町村の保健婦
8月31日 (土)	第10回リハビリテーション研修 リハビリ医療技術者研修 リハビリテーションにおけるソーシャルワーク援助について	未 定	SW、その他関係職種
9月7日 (土)	第11回リハビリテーション研修 理学療法士技術者研修 脊椎の評価と徒手療法 作業療法士技術者研修 補助具研修(姿勢保持について)	リハビリセンター職員 東京都立医療技術短期大学部 木之瀬 隆氏	P・T 40名 O・T 25名
10月20日 (土)	第12回リハビリテーション研修 バリアフリー推進工房研修会 未定	未 定	リハビリ関係、その他一般
11月9日 (土)	第7回障害者日常生活補助具製作研修 補助具の簡単な製作方法や市販品の改良方法について	リハビリセンター職員他	県市町村の保健婦、福祉施設職員
11月30日 (土)	第13回リハビリテーション研修(リハビリ医療技術者研修) 嚙下障害アプローチ	未 定	S・T、その他関係職種 50名
12月14日 (土)	第14回リハビリテーション研修 リハビリ医療技術者研修 障害を持つ人のための住宅・自立支援機器 Part II	石川県建築士協会理事 山田 文代氏 金沢美術工芸大学 荒井 利春氏 リハビリセンター職員	P・T、O・T、保健婦 50名
平成9年 1月25日 (土)	第15回リハビリテーション研修 地域リハビリ医療技術者研修 介護保険について	未 定	リハビリ関係職種 150名
3月8日 (土)	第8回障害者日常生活補助具製作研修 補助具の簡単な製作方法や市販品の改良方法について	総合せき損センター 井手 将文氏	O・T、その他関係職種

バリアフリー社会の構築に向け

県では、障害のある人もない人も共に安心して生活できるバリアフリー（障壁のない）社会の構築を目指しています。

平成8年4月からは、産学官による福祉機器の開発研究の拠点として、当センターにバリアフリー推進工房を設置しました。
(直通 0762-66-2867)

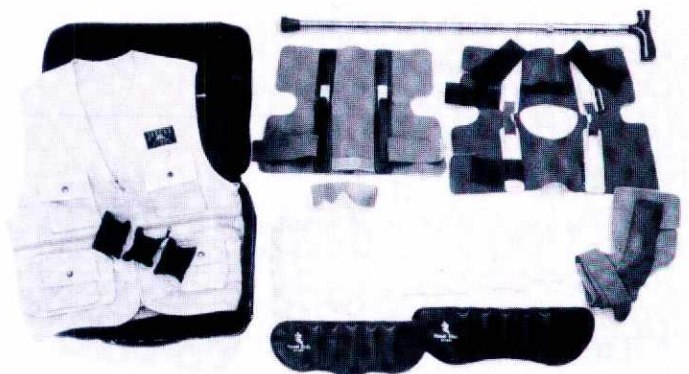
—— 新たな福祉機器のニーズを探る ——

同工房では、福祉施設や病院などから福祉機器に関する改善点などの提案や情報を集め、新たな利用者ニーズを探ります。これに基づき、県工業試験場、地元大学、企業と連携し新たな機器の研究開発に取り組むことにしています。リハビリ工学技師など3人の専任職員のほか、県工業試験場技術者の兼務により組織されており、今年度は車いすなどの移動支援機器をテーマとして研究を進めていきます。

「うらしま太郎」を体験しよう

当センターでは、高齢者や障害のある人の声を生活に役立てることを目的に、高齢者や障害のある人の身になって「なにが不便なのか?」「どこが不安なのか?」を肌で感じてもらうため、疑似体験セット「うらしま太郎」を購入しました。このセットは、

- ・高音域を聞きづらくした耳栓
- ・ぼやけて見える状態や視野の狭さを再現する特殊眼鏡
- ・かがみの姿勢を再現する荷重チョッキ
- ・手足を動きにくくする重り
- ・物がつかみづらい手袋



など、を装着し身体的機能低下や心理的变化を擬似的に体験できるものです。

高齢者や障害のある人の気持ちを理解し、不便さを実感できる体験学習として、医師、看護婦、作業療法士等の医療関係職員をはじめ、保健婦、ヘルパー等の介護関係職員、福祉関係職員を対象とする介護研究・研修に大いに活用いただければと思います。

水中運動療法が さらに効果的に 流水抵抗型 訓練用プール

水中での訓練は、水の特性、浮力を利用した訓練ができるので、整形外科手術後の患者さんや股関節、膝等に痛みのある患者さんに対して、関節にあまり負担をかけずに歩行訓練等ができます。

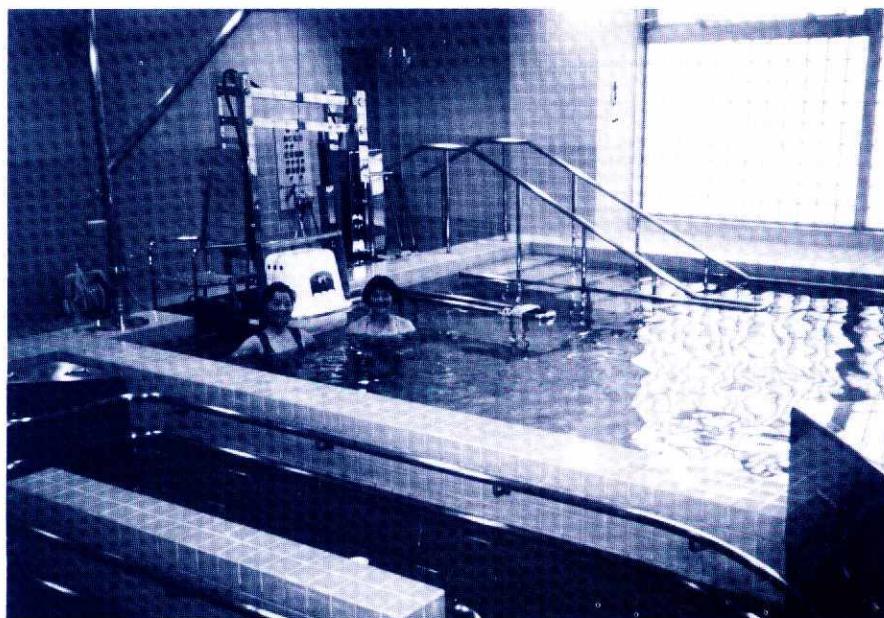
当センターの1F、水治療室には2つの訓練用プールがあります。外見はただのプールですが、他の施設には見られない装置が設置されています。歩行訓練用プールには、(株)酒井医療製 噴流装置 M-0112 特型

運動用プールには、(株)エアロビプールジャパン製 多目的強力流水装置 フローマシーン HM-7A型を装備。

これらはいずれも流水発生装置です。歩行、水泳または、各種の運動に対し流水で抵抗をかけます。例えば水中ウォーキングに抵抗をかけると関節にあまり負担をかけずに持久力訓練ができます。水泳に対して流水対抗をかけると静止水泳の状態になり、狭いプールであっても水泳の訓練が可能になります。

また、激しい流水を起こすことにより超音波が発生し、腰痛、関節痛に対し循環の改善、鎮痛効果があります。

現在、入院、外来の患者さんに評判です。



日本チェアスキー大会に参加して

我々は去る2月29日から4日間、第17回日本チェアスキー大会に参加しました。チェアスキーとは一般的には1枚のスキー板上に固定されたいす付きのフレームに乗り、体幹の前後傾と2本のアウトリガー（ストックに相当）の制動により雪面を滑降する車椅子スポーツであり、パラリンピックのような競技会が行われたり、健常者と同様に技能テストも行われたりしています。

今回参加した大会は競技会ではなく、チェアスキーの普及と技術向上を目指したツアーで、各人が3日目の技能テストに向けて講習を受けるものでした。チェアスキーヤーは障害の程度が様々で全国各地から参加されていました。

まずスタッフに対する介助方法が指導された後、講習会が行われました。1人のスキーヤーに1人のスタッフという感じでメンバーが振り分けられ、私が担当したのは中学2年生の男の子でした。彼も私もチェアスキーが初めてなのでお互い不安を感じながら講習会が始まりました。案の定、最初は1人で立つこともできず後ろにつきっきりの状態でした。また滑っているより転んでいる回数の方が多く、介助している私も一緒に転んでしまい1時間もたないうちにくたくたになっていました。しかし、『滑れるようになって技能テストに合格するんだ』という彼の思いは強く、転んでも転んでも弱音を吐かず挑戦していく姿を見ていると私も合格させてあげたいという気持ちになり自然と力がわいてきたのです。それからめきめきと上達していき何とか1人で滑れるようになった時は手をたたいて喜びました。そして技能テストの日、風がとても強く最悪のコンディションの中行われました。見ている私の方が緊張していたようで彼は予想以上の出来でテスト項目をクリアしていききました。テストが終了して帰ってきた、彼の充実感でいっぱいの表情を見た時、この大会に参加できたことに喜びを感じました。その日の夜、合格発表があり彼は見事合格することができました。お祝いの握手を交わした時、胸に熱いものがこみ上げてきたのを今でも覚えています。やはり何事にも“やる気”と“努力”が必要だと思いました。また、大会期間中車椅子使用者と生活場面を共にできたことが何よりも貴重な経験となりました。我々が泊まったホテルはバリアフリーが全くされていませんでしたが、入浴時など自分の行きやすいように工夫をしたり、どうしてもできない場合はスタッフの助けを呼んだりしていました。バリアフリーのされていない場所でないともできないと消極的になりがちですが、「互いに協力し合えばできないことはないんだ」という事を身にしみて感じました。

今回の大会には残念ながら石川県からのチェアスキーヤーの参加がありませんでした。この体験を生かしてチェアスキーのおもしろさを伝えるとともに、少しでも多く外に出ていろいろな方と接したり趣味を持つ喜びを味わってほしいと感じました。そのためにも障害者・健常者が気軽に参加できるような機会を提供できるよう働きかけていければと思います。



編集・発行 石川県リハビリテーションセンター
〒920-03
金沢市赤土町=13-1
TEL (0762) 66-2860
FAX (0762) 66-2864
